「新大分スタンダード」による主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導案（略案）例

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| ①学年・組 | ②職名・授業者氏名 | ③教科 | ④ペアでの話合い活動 | ⑤グループでの話合い活動 |
| １年１組 | 教諭・日田　太郎 | 国語 | 有 ・ 無 | 有 ・ 無 |
| ⑥単元名(題材名) | ようちえんにとどける　じどう車ずかんを　つくろう |
| ⑦本時のねらい | 自分の選んだ自動車について調べたことを、取材メモの「しごと」と「つくり」を照応させることによって、説明に必要な事柄を確かめ伝えたいことを明確にできるようにする。 |
| ⑧本時の評価規準 | 【思考・判断・表現Ｂア】「しごと」に合った「つくり」を選び、伝えたいことを明確にしている。〔ノート〕 |
| ⑨展開 | めあて | 自分の自動車の「しごと」と「つくり」を説明する文章を書こう。 |
|  | 課　題 | 調べたことを、どのように使うとよいかな。 |
| 手立て | 「Ｃ:努力を要する」状況の児童への手立て・モデルの説明文と取材メモに書かれた事柄を色分けしながら照応させ、文章に入れていない事柄をとらえやすくする。・接続語「そのために」の使い方を、既習の説明文「じどう車くらべ」を基に確認させる。 |
| 「特別な支援等の配慮を要する」児童への手立て・文字を書くことが苦手な児童に対して、大きなマス目のノートを用意し、状況に応じて書く量を減らす。 |
| まとめ | 知らせたい「しごと」に合った「つくり」を、調べたことから選んで書くとよい。 |
| 振り返り | 知らせたいことを一つだけにすると、上手につなげて書けたよ。 |
| 板書計画めあてじぶんの じどう車の 「しごと」と「つくり」をせつめいする 文しょうを かこう。かだいしらべたことを、どのようにつかうとよいかな。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| けがをした人やびょうきの人をはこぶ。いそいではしる。 | しごと | きゅうきゅう車 |
| うごかせるベッドがある。うんてんせきのうしろがひろい。サイレン。 | つくり |

しらべたことをぜんぶつかっていない。まとめしらせたい「しごと」にあった「つくり」を、「しごと」と「つくり」があっている。しらべたことから えらんでかくとよい。ふりかえりしらせたいことを 一つだけにすると、じょうずに つなげて かけたよ。 |